

○地方競馬全国協会契約事務取扱細則の特例を定める細則（原文縦書）

平成八年九月五日

平成八年度達第三号

最終改正 平成二六年 二月二六日平成二五年度達第 四号

（趣旨）

第一条 この細則は、政府調達に関する協定（平成七年条約第二十三号。以下「協定」という。）、平成二十四年三月三十日ジュネーブで作成された政府調達に関する協定を改正する議定書によって改正された協定（以下「改正協定」という。）その他の国際約束を実施するため、地方競馬全国協会（以下「協会」という。）の締結する契約のうち国際約束の適用を受けるものに関する事務の取扱いに関し、地方競馬全国協会契約事務取扱細則（平成二十四年度達第十一号。以下「契約事務取扱細則」という。）の特例を設けるとともに必要な事項を定めるものとする。

（定義）

第二条 この細則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 一 物品等 動産（現金及び有価証券を除く。）及び著作権法（昭和四十五年法律第四十八号）第二条第一項第十号の二に規定するプログラムをいう。
- 二 特定役務 改正協定の附属書 I 日本国の付表 5 に掲げるサービス及び同附属書 I 日本国の付表 6 に掲げる建設サービス（本細則において「建設工事」という。）に係る役務をいう。
- 三 調達契約 物品等又は特定役務の調達のため締結される契約（当該物品等又は当該特定役務以外の物品等又は役務の調達が付随するものを含み、民間資金等の活用による公共施設等の促進に関する法律（平成十一年法律第百十七号）第二条第二項に規定する特定事業（建設工事を除く。）にあっては、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律の一部を改正する法律（平成二十三年法律第五十七号）による改正前の同項に規定する特定事業を実施するため締結される契約に限る。）をいう。
- 四 一連の調達契約 特定の需要に係る一の物品等若しくは特定役務又は同一の種類の上記の二以上の物品等若しくは特定役務の調達のため締結される二以上の調達契約をいう。

（適用範囲）

第三条 この細則は、協会の締結する調達契約であって、当該調達契約に係る予定価格（物品等の借入れに係る調達契約又は一定期間継続して提供を受ける特定役務の調達契約にあっては、借入期間又は提供を受ける期間の定めが十二ヶ月以下の場合は、当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の予定価格の総額、その期間の定めが十二ヶ月を超える場合は当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の予定価格の総額に見積残存価格を加えた額とし、その他の場合は、一月当たりの予定賃借料又は一月当たりの特定役務の予定価格に四十八を乗じて得た額とする。）が次の各号に掲げる区分に応じ当該各号に定める額以上であるもの（以下「特定調達契約」という。）に関する事務について適用する。ただし、有償で譲渡（加工又は修理を加えた上でする譲渡を含む。）をする目的で取得する物品等若しくは当該物品等の譲渡（加工又は修理を加えた上でする譲渡を含む。）をするために直接に必要な特定役務（当該物品等の加工又は修理をするために直接に必要な特定役務を含む。）又は有償で譲渡をする製品の原材料として使用する目的で取得する物品等若しくは当該製品の生産をするために直接に必要な特定役務の調達契約に関する

事務についてはこの限りではない。

- 一 物品等の調達契約 国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（昭和五十五年政令第三百号。以下「国の特例政令」という。）第三条第一項に規定する財務大臣の定める額
 - 二 特定役務のうち建設工事の調達契約 地方公共団体の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（平成七年政令第三百七十二号）第三条第一項に規定する総務大臣の定める額
 - 三 特定役務のうち建築のためのサービス、エンジニアリング・サービスその他の技術的サービスの調達契約 国の特例政令第三条第一項に規定する財務大臣の定める額
 - 四 特定役務のうち前二号に掲げるもの以外の調達契約 国の特例政令第三条第一項に規定する財務大臣の定める額
- 2 前項の予定価格は、調達契約に関し単価についてその予定価格が定められる場合にあつては当該予定価格に当該調達契約により調達すべき数量を乗じた額とし、一連の調達契約が締結される場合にあつては当該一連の調達契約により調達すべき物品等又は特定役務の予定価格の合計額とする。

（競争参加者の資格に関する審査等）

第四条 理事長は、特定調達契約の締結が見込まれるときは、契約事務取扱細則第五条（同第二十二條第二項における準用を含む。以下本条において同じ。）の規定により行う、協会の調達契約に関する一般競争又は指名競争（以下本条において「競争」という。）に参加する者に必要な資格（以下単に「資格」という。）の審査は、競争に参加しようとする者の申請をまって、随時に、しなければならない。

2 理事長は、契約事務取扱細則第五条の規定により競争に参加する者に必要な資格が定められている場合において、特定調達契約の締結が見込まれるときは、資格の基本となるべき事項並びに資格の審査の申請の時期及び方法等について、当該特定調達契約の締結が見込まれる年度ごとに、官報により公示しなければならない。

3 理事長は、前項の公示において、次に掲げる事項を明らかにしなければならない。

- 一 調達をする物品等又は特定役務の種類
 - 二 契約事務取扱細則第五条に規定する資格の有効期間及び当該期間の更新手続
- 4 理事長は、特定調達契約に関する事務については、指名競争に参加する資格を有する者の名簿を作成しなければならない。

（一般競争の公告）

第五条 契約担当役は、特定調達契約につき一般競争に付そうとするときは、その入札の期日の前日から起算して少なくとも四十日前（一連の調達契約に関し、その最初に係る入札の公告において二十四日以上四十日未満の入札期間を定めることを示す場合には、当該その後の契約については、その定めた日まで）に官報により公告しなければならない。ただし、急を要する場合には、その期間を十日までに短縮することができる。

2 契約担当役は、入札者若しくは落札者がいない場合又は落札者が契約を結ばない場合において、さらに入札に付そうとするときは、前項による入札公告の期間を短縮することはできないものとする。

（一般競争について公告をする事項）

第六条 前条の規定による公告は、次に掲げる事項についてするものとする。

- 一 競争入札に付する事項

二 競争に参加する者に必要な資格に関する事項

三 契約条項を示す場所

四 競争執行の場所及び日時

五 入札保証金に関する事項

六 一連の調達契約にあつては、当該一連の調達契約のうちの一の契約による調達後において調達が予定される物品等又は特定役務の名称、数量及びその入札の公告の予定時期並びに当該一連の調達契約のうち最初の契約に係る入札の公告の日付

七 契約担当役が別に定める申請の時期及び場所

八 第十条に規定する文書の交付に関する事項

九 落札者の決定の方法

2 契約担当役は、前項の公告において、当該公告に示した競争に参加する者に必要な資格のない者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする旨を明らかにしなければならない。

3 契約担当役は、第一項の規定による公告において、契約担当役の氏名及び機関の名称並びに契約の手續において使用する言語を明らかにするほか、次の各号に掲げる事項を英語により、記載するものとする。

一 調達をする物品等又は特定役務の名称及び数量

二 入札期日

三 契約担当役の氏名及び機関の名称

(指名競争の公示等)

第七条 契約担当役は、特定調達契約につき指名競争に付そうとするときは、第五条第一項の規定の例により、公示しなければならない。

2 前項の規定による公示は、前条の規定により一般競争について公告するものとされている事項のほか、理事長が別に定める指名競争において指名されるために必要な要件についてもするものとする。

3 理事長が別に定めるところにより指名される競争参加者に対しては、前条第一項第一号及び第三号から第五号までに掲げる事項を第一項の規定による公示の日において当該競争参加者に通知するものとする。

4 前項の場合においては、前項により通知しなければならない事項のほか、次に掲げる事項を通知しなければならない。

一 一連の調達契約にあつては、前条第一項第六号に掲げる事項

二 契約の手續きにおいて使用する言語

(公告又は公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者の取扱い)

第八条 理事長は、契約担当役が特定調達契約につき一般競争に付そうとする場合において公告をし、又は指名競争に付そうとする場合において前条第一項の規定による公示をした後、当該公告又は公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者から資格の審査の申請があつたときは、速やかに、その者が契約事務取扱細則第五条（同第二十二條第二項における準用を含む。）に規定する資格を有するかどうかについて審査を開始しなければならない。

2 契約担当役は、特定調達契約に係る指名競争の場合においては、前項の規定による審査の結果、契約事務取扱細則第二十二條第二項において準用する第五条に規定する資格を有すると認められ

た者のうちから、指名されるために必要な要件を満たしていると認められる者を指名するとともに、その指名する者に対し、前条第三項に規定する事項及び同条第四項各号に掲げる事項を通知しなければならない。

3 契約担当役は、特定調達契約につき資格の審査の申請を行った者から入札書が第一項の規定による審査の終了前に提出された場合においては、その者が開札の時に於いて、一般競争の場合に於いては第六条第一項第二号に規定する競争に参加する者に必要な資格を有すると認められることを、指名競争の場合に於いては前項の規定により指名されていることを条件として、当該入札書を受理するものとする。

4 契約担当役は、第一項の資格の審査の申請があった場合において、開札日時までに同項の規定による審査を終了することができないおそれがあると認められるときは、あらかじめ、その旨を当該申請を行った者に通知しなければならない。

(郵便等による入札)

第九条 契約担当役は、特定調達契約につき郵便又は民間事業者による信書の送達に関する法律(平成十四年法律第九十九号)第二条第六項に規定する一般信書便事業者若しくは同条第九項に規定する特定信書便事業者による同条第二項に規定する信書便による入札を禁止してはならない。

(入札説明書の交付)

第十条 契約担当役は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付そうとするときは、これらの競争に参加しようとする者に対し、その者の申請により、次に掲げる事項を記した入札説明書を交付するものとする。

一 第六条又は第七条第二項の規定により公告又は公示をするものとされている事項(ただし、第六条第一項第七号に掲げる事項を除く。)

二 調達をする物品等又は特定役務の仕様その他の明細

三 開札に立ち会う者に関する事項

四 契約担当役の氏名並びにその所属する機関の名称及び所在地

五 契約の手續において使用する言語

六 契約の手續において電子的手段を用いる場合には、当該電子的手段のいに関する事項

七 その他必要な事項

(随意契約によることができる場合)

第十一条 特定調達契約については、次に掲げる場合に該当するときに限り、随意契約によることができる。

一 一般競争又は指名競争に応ずる入札がない場合、行われた入札がなれ合いによる場合若しくは入札に関する条件に合致していないものである場合。ただし、当初の入札の要件が契約の締結に当たって実質的に修正されないことを条件とする。

二 他の物品等をもって代替させることができない芸術品又は特許権等の排他的権利に係る物品等若しくは特定役務の調達をする場合において、当該調達の相手方が特定されているとき。

三 既に調達をした物品等(以下この号において「既調達物品等」という。)の交換部品その他既調達物品等に接続して使用する物品等の調達をする場合であって、既調達物品等の調達の相手方以外の者から調達したならば既調達物品等の使用に著しい支障が生ずるおそれがあるとき。

四 協会の委託に基づく試験研究の結果製造された試作品等の調達をする場合

五 既に契約を締結した建設工事(以下この号において「既契約工事」という。)についてその

施工上予見し難い事由が生じたことにより既契約工事を完成するために施工しなければならないようになった追加の建設工事（以下この号において「追加工事」という。）で当該追加工事の契約に係る予定価格に相当する金額（この号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約を締結した既契約工事に係る追加工事がある場合には、当該追加工事の契約金額（当該追加工事が二以上ある場合には、それぞれの契約金額を合算した金額）を加えた額とする。）が既契約工事の契約金額の百分の五十以下であるものの調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達したならば既契約工事の完成を確保する上で著しい支障が生ずるおそれがあるとき。

六 計画的に実施される施設の整備のために契約された建設工事（以下この号において「既契約工事」という。）に接続して当該施設の整備のために施工される同種の工事（以下この号において「同種工事」という。）の調達をする場合、又はこの号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約が締結された同種工事に接続して新たな同種工事の調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達をすることが既契約工事の調達の相手方から調達をする場合に比して著しく不利と認められるとき。ただし、既契約工事の調達契約が第四条から前条までの規定により締結されたものであり、かつ、既契約工事の入札に係る第六条の公告又は第七条の公示においてこの号の規定により同種工事の調達をする場合があることが明らかにされている場合に限る。

七 緊急の必要により競争に付することができない場合

八 事業協同組合、事業協同小組合若しくは協同組合連合会又は商工組合若しくは商工組合連合会の保護育成のためこれらの者から直接に物品等を買入れるとき。

（落札者の決定に関する通知等）

第十二条 契約担当役は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争により落札者を決定したときは、その日の翌日から起算して七日以内に、落札者を決定したこと、落札者の氏名及び住所並びに落札金額を、落札者とされなかった入札者に書面により通知するものとする。この場合において、落札者とされなかった入札者から請求があるときは、当該請求を行った入札者が落札者とされなかった理由（当該請求を行った入札者が無効とされた場合にあっては、無効とされた理由）を、当該請求を行った入札者に通知するものとする。

2 契約担当役は、特定調達契約につき、一般競争又は指名競争により落札者を決定したとき、又は随意契約の相手方を決定したときは、その日の翌日から起算して七十二日以内に、次に掲げる事項を官報により公示しなければならない。

一 落札又は随意契約に係る物品等又は特定役務の名称及び数量

二 契約担当役の氏名並びにその所属する機関の名称及び所在地

三 落札者又は随意契約の相手方を決定した日

四 落札者又は随意契約の相手方の氏名及び住所

五 落札金額又は随意契約に係る契約金額

六 契約の相手方を決定した手続

七 一般競争又は指名競争によることとした場合には、第五条の規定による公告又は第七条の規定による公示を行った日

八 随意契約による場合にはその理由

九 その他必要な事項

(一般競争又は指名競争に関する記録)

第十三条 契約担当役は、特定調達につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者を決定したときは、次に掲げる事項について、記録（契約の手続きにおいて電子的手段を用いた場合には、その電磁的記録を含む。）を作成し、地方競馬全国協会文書取扱規程（平成十四年度達第三号）第三十四条に定める期間、保管するものとする。

- 一 入札者及び開札に立ち会った者の氏名
- 二 入札者の申込みに係る価格
- 三 落札者の氏名、落札金額及び落札者の決定の理由
- 四 無効とされた入札がある場合には、当該入札の内容及び無効とされた理由
- 五 第八条第四項の規定により通知した場合には、その通知に関する事項
- 六 その他必要な事項

(随意契約に関する記録)

第十四条 契約担当役は、特定調達契約につき随意契約によった場合には、当該随意契約の内容及び随意契約によることとした理由について、記録を作成し、前条に規定する期間保管するものとする。

(苦情の処理)

第十五条 契約担当役は、特定調達契約につき落札者とされなかった入札者からの苦情その他特定調達契約に係る苦情の処理に当たる職員を指定するものとする。

(特定調達契約に関する統計)

第十六条 理事長は、農林水産省の依頼により特定調達契約に関する統計を作成し、同省に送付するものとする。